

児童・生徒の実態	<p>(3年) 高校入試に対する意識が高まりつつあり、それに伴って授業に真剣に取り組もうとする姿勢が全体的に見られるようになってきた。しかし、基礎的な学力不足は否めず、頑張ろうという意識だけが目立ち、具体的な成果は見られない。</p> <p>(1・2年) 読む、書くなど基礎学力が身につけていない生徒が多い。また、話を最後まで聞かず思ったことを口にしてしまい、じっくり考えることが苦手である。私語、立ち歩き、忘れ物をするなど、授業に取り組む姿勢が十分とは言えず、家庭学習の習慣を持たない生徒の割合が高い。</p>	
後期の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に授業に取り組むことが当たり前とする授業規律(時間を守る・迷惑をかけない・妨害しない・集中する)の確立を図る。 ・集中してしっかり聞き、自分で考える姿勢作り。 ・朝読書、デイリーノートの記録部分を活かした、読み書きの力の育成を図る。 	
担当学年	課題	改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・今後につながる授業規律の確立 ・基礎・基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部と連携し、授業妨害生徒の対策を考える。 ・カルタなど、学習活動に意欲を持たせる教材教具の工夫。 ・定着を図る問題演習。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・今後につながる授業規律の確立。 ・基礎・基本の定着と向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部と連携し、授業妨害生徒の対策を考える。 ・自分で考える(読む・書く)ためのわかりやすいワークシートの工夫。 ・演習と小テスト、辞書の使用による言語力の向上。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学習内容の確認 ・作文等の表現能力の向上 ・高校入試に向けての学力補充 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・文法等における反復学習を日常的に行い、習慣化を図る。 ・ミニ弁論大会等を実施し、表現能力の向上を目指す。 ・問題演習を行い、解答、解説を念入りに行い、学力の向上と同時に、高校入試に対する心構えを身に付けさせる。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<p>(課題) 1、2、3学年とも「話す聞く力」を除き目標値に到達していない生徒が多い。特に「読む力」「書く力」が不足している。単純な作業はやるが、自分で読み、考えること、書くことを面倒くさがる姿が日常的に見られる。</p> <p>(取り組み) 自分で考えることを人任せにしないように、課題を工夫したり、グループ学習を取り入れる。</p>	
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の家庭学習ドリルに(全学年で取り組んでいる)に取り組ませ点検する。生徒のみならず、三者面談や保護者会でも取り上げ、保護者にもドリルの意義や効果を理解してもらうことで家庭の協力・応援をお願いし、取り組まない生徒の割合を減らしていく。 	
学びを深める学習ルール	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る。・妨害・迷惑行為はしない。・集中して話を聞く。これらのことがあたりまえとなるように、見回り、休み時間からの声かけなど全職員で協力し、支援員の協力を得、生徒・保護者も巻き込んで確立を図っていく。 	

平成23年度授業改善計画

数学 担当	氏名	小林 正・原 美希・ 大塚 雅利
-------	----	---------------------

児童・生徒の実態	小学校段階での知識が十分に理解されておらず、授業規律を最優先に考えざる得ない状況である。家庭学習の習慣がなく、反復学習が学校生活のみになってしまいがちである。また、文章理解力が欠けており自己学習をするにあたっての基本的スキルが十分に身につけていない。個別指導に対しては積極的である半面、全体指導での困難さが否めないのが実態である。	
後期の重点	計算コンテストを一つの柱に全学年計算力の向上を目標とするとともに、教えあいを充実させ、チーム・ティーチングによる個別指導の充実と、一つの問題に一つの解答ということに執着させず、さまざまな問題へのアプローチを多角的に行う。文章問題については、図解などを利用したり、電子黒板の利用を充実させ、図形の分野においては特に視覚的に理解しやすいよう指導を心がける。	
担当学年	課題	改善策
第1学年	小学校段階の数量,図形についての知識・理解が不十分である。特に問題を読み取るなどの応用力、分数や小数の計算等も含めた複雑な計算力に欠ける。また、家庭学習の習慣がなく、間違えた問題をくり返し練習する意欲に欠ける。	宿題プリントや小テスト、計算コンテストなどで、繰り返し練習で基礎的な計算力をつけさせたり、家庭学習の習慣をつけられるように考える。応用については、図や表を提示して、視覚的に捉えて、問題を整理して考えられる工夫をする。
第2学年	個人差が到達度だけでなく、意欲でも大きい。計算問題には比較的意欲的に取り組む。授業のみの学習が多く、理解から定着までのプロセスが確立されていない。論理的思考の分野では力がある生徒もいるが、表現する力の部分で足りない部分がある。	計算コンテストなどで、基礎的な計算力をつけさせる。応用については、具体的に捉えやすい教材の準備を心がけ、あきらめさせない指導をさらに強化する。また、家庭学習の習慣を定着させる。テスト前の質問教室だけでなく、普段から授業の中で、質問できる雰囲気作りをさらに充実させる。
第3学年	個人差が大きく意欲の差も大きい。全体的には、問題を読み取るなどの応用力に欠け、中間式や、考え方を示すなどの手間をいやがる傾向が強い。関数の問題に関して特に苦手意識が強く、問題に取り組む前からあきらめてしまう。	授業、宿題、小テストなど時間差を置いて実施し、内容の定着をはかる。黒板での発表も挙手で書かせ、問題を自分で選ぶなどして意欲を持たせる。応用については問題を図や表等にまとめる方法を示し、複数の解答例を示す。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	自分の知識に自信がないためか、文字がたくさん並ぶ問題や面倒な問題へ取り組もうとする意欲が少ない傾向がある。その反面、計算問題等では、頑張っ取り組もうとする姿も見える。	
家庭との連携による学習習慣の確立	家庭学習の習慣がある生徒は少ない。塾等へ通っていてもそれで終わりと考えてしまう傾向がある。コンテストや宿題を通して家庭学習の材料を提供しつつ、保護者会等を通して家庭学習の確立を促してゆく。	
学びを深める学習ルールの確立	授業、家庭学習での復習を一つの柱として、問題演習の時間においては習熟が早い生徒が時間のかかる生徒へのサポートを確立させ、ワークなどを自分のペースにより進めていく雰囲気を作る。	

英語担当	中村 通雄・杉山 美智江
------	--------------

児童・生徒の実態	<p>BINGOなどのゲーム的要素のある活動には積極的に参加するが、英語学習に対してあきらめを感じている生徒も少なくない。区の学習到達度調査では、文法、読解問題、表現力が著しく低い数値を表わしている。基礎・基本の学力を定着させ、発展的な学習を計画的に行う必要がある。</p>	
後期の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習意欲の喚起（分かる授業、スモールステップを踏んだ授業） 2 基礎・基本の徹底（単語、基本文の定着） 3 理解の能力の育成（教科書の徹底理解） 4 表現の能力の育成（自己表現活動） 	
担当学年	課題	改善策
第1学年	<p>小学校英語の導入により、学習能力にかなり差が生じている。大変意欲的に授業に取り組む生徒と英語に対する苦手意識が高い生徒の両極端である。どのレベルに合わせた授業が適当であるのか、苦慮している。</p>	<p>昨年度までは、少人数授業を実施してきたが、生徒の希望もあり、能力別クラスによる習熟度別学習を実施することとした。保護者の意見も取り入れながら、基礎・定着コースと発展コースに分け、必要に応じてコース変更ができるものとした。</p>
第2学年	<p>学習計画力、学習習慣などがほとんど身につけていない。</p>	<p>学習に対する計画力、習慣、継続性を身につけさせるために、創意工夫する。</p>
第3学年	<p>学習に取り組む姿勢はかなり前向きになり、与えられた課題には取り組めるようになった。基礎・基本の学習は一生懸命取り組むのだが、長文読解や英作文といった課題に対しては、初めからあきらめてしまう傾向がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Aノート（授業用）とBノート（家庭学習用・単語練習用等）の活用の更なる充実を図る。 ・リスニング・テストを定期的実施する。また、音声指導を取り入れる。 ・短文を書かせるような課題を準備し、繰り返し指導する。また、身近なテーマを与え、3文以上の英作文を書かせるように、段階的に指導する。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<p>スペリングコンテストや朝学習、授業での小テスト等を通して、知識や技能を育成する。また、長文読解や音読、リスニング問題（ディクテーションを含む）等を意図的、計画的に実施することで、思考力や判断力、表現力を伸ばし、バランスのとれた授業展開を行う。</p>	
家庭との連携による学習習慣の確立	<p>最初の授業で、持ち物、授業を受ける心構え、予習・復習の仕方等を明確に伝えている。同様に保護者会でもガイダンスを行い、周知徹底を行う。</p>	
学びを深める学習ルールの確立	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律の確立を図る。 2 授業のねらいを明確にし、自己評価させる。 3 家庭学習を推進する。 	

児童・生徒の実態	活発ではあるが、自分のやりたいことだけやりたいという傾向が強く、授業に地道に取り組もうという姿勢が確立できていない。 私語・忘れ物・立ち歩きなども多く、自分とその周辺にだけ関心が限られ、社会・世界の出来事への関心に乏しい。	
後期の重点	授業への取り組みの基本事項（時間を守る・話を聞く・他に迷惑をかけない等）を身につけさせる。 生徒の興味を引く教材を準備し、社会に対する関心を高める。	
担当学年	課題	改善策
第1学年	授業に取り組もうとせず、私語がやまない生徒がいる。教科書等も持ってこない生徒もおり、学力が低い。	授業への意欲と集中力を育むための生徒の学力に合った教材の工夫。プリントを使った基礎学力の定着。
第2学年	全体に私語・立ち歩き・抜け出しが多く、授業規律が乱れている。教科書等も持たない生徒も多く、プリント学習も難しい。	生徒の関心・意欲を引きつける切実感のある教材準備。プリント学習の工夫。
第3学年	3学年の中で最も安定した授業態度で、プリント学習にも良く取り組む。さらに社会に対して関心を開くことを目指す。一部、意欲不足の生徒もいる。	現在の社会と結び付いた教材を工夫し、生徒の関心を広げる。基礎学力の定着。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	社会科の学習は知識の獲得だけで良しとする生徒が多い。 世界・社会の主体者となるために思考力・判断力・表現力が必要であることを認識させていく。	
家庭との連携による学習習慣の確立	家庭学習の習慣がある生徒は少ないと思われる。家庭内で、生徒の関心を社会・世界に広げる機会を持ってもらう。	
学びを深める学習ルールの確立	授業規律の確立を全校で取り組み、支援員の協力も得る。保護者の協力も考慮に入れる。	

理科	担当	氏名	鎌原 一恵
----	----	----	-------

生徒の実態	<p>(1年)話を最後まで聞いてから発言することが難しい。また、自分中心的な行動や発言が多く、騒がしい。一方で発言をほとんどせず、受動的な授業の受け方をしている生徒もいる。</p> <p>(2年)授業中、自分で考えようとはするが、答えが出せなかったり、自信がなかったりするため積極的に発言することができない生徒がいる。また、自己中心的な行動をする生徒が十数名いるため、それらの生徒の作業が終わるとうるさくなる。</p> <p>(3年)落ち着きがなく、学習に取り組みない生徒が数名いるが、多くは課題に取り組むことができる。多くの生徒が、できないことに対して積極的に発言や質問をしない。</p>	
後期の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・考えるときは、全員が自分の意見を整理し、表現するためにノートに記入させる。わからない点などは、まず生徒同士で考えさせられるようにする。 ・チャイムで始められるよう、机上に準備をするよう積極的に声がけを行う。 ・授業規律の徹底。(時間を守る、授業妨害をしない、など) 	
担当学年	課題	改善策
第1学年	<ol style="list-style-type: none"> ① 自己表現力の向上。 ② 授業規律の確立。(メリハリ) 	<ol style="list-style-type: none"> ① ノートなどに自身の考えを書かせる。ノートに記入することに慣れさせる。 ② 書く時間、聞く時間、など今生徒自身が何をやる時間なのか、はっきりと示す。
第2学年	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業規律の確立。 ② 興味を引く教材の工夫。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 目標の提示や授業のルールを行う。発展課題を作る。 ② 興味関心をひく教材の開発を行う。
第3学年	<ol style="list-style-type: none"> ① 入試に向けた授業内容。 ② 生徒実験をできるだけ行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な内容から確認をしていき、生徒自身がどこでつまづいたかわかるような展開をする。 ② 目的・方法などを全員が理解したうえで班で協力した操作を行うようにする。ノートに書かせることによって理解を促す。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら自然現象について考えて仮説をたて、実験を行い、考察をする。という一連の流れに取り組みさせる。少人数の班で協力できるような活動を一斉授業のなかでも取り入れていく。 	
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの現象について積極的に授業で扱うことで、生活に生きた理科になる。理解していないと人に説明はできないため、家庭で話を聞くことをお願いする。 ・全学年、一定の内容を終えたときに問題集に取り組みさせている。3年はそれに加えて総まとめ問題集を取り組んでいる。 	
学びを深める学習ルールの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、書く、発言をする、という時間をメリハリがつけられるように、生徒間、教職員間で協力していく。 ・授業妨害(私語・立ち歩きなども含む)がなくなるよう、意識を改善していくよう繰り返し指導していく。 	

児童・生徒の実態	元気がよく、活発な生徒が多い。自分の好きなこと、興味のあることには積極的に取り組むが、そうでないことには、最初から取り組もうとしない。また、すぐに飽きてしまう。人の話を聞いて、素直に受け止め、理解して、行動する力が弱い。現状に満足し、知的好奇心、向上心が欠けている。	
後期の重点	授業への取り組みの基本事項（時間を守る、忘れ物をしない、話を聞く、提出物を期限までに出す、真面目な態度で授業を受ける）を身につけさせる。 必ず学ぶべき教材、押さえておきたい教材の学習を確実に実施し、生徒たちが生涯にわたって音楽に親しむ土台を作る。生徒たちの心情を磨き、積極的に音楽に関わろうとする態度を伸ばす。	
担当学年	課題	改善策
第1学年	調子に乗ってふざけてしまい、授業へのけじめが足りない。その場限りで様々な学習が定着しない。話を聞く、考える、実践するという系統だった取り組みが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動、落ち着いて話を聞く、考える、発表する等授業にめりはりをつける。 ・プリント学習で基本事項の定着を図る。
第2学年	授業に取り組む基本的な意識ができていない。男女のバランスが悪いため、混声合唱でハーモニーを作り上げるのが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々への声かけを続けながら、授業に落ち着いて取り組めない生徒の意識を変える。 ・パート分けの工夫をする。
第3学年	授業への取り組みはとても良い。音楽が好きな生徒が多く、積極的に授業に参加する。ただ現状に満足してしまい、内容を深めようとする意識に欠ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・構成のしっかりした教材を取り上げ、じっくりと学習する経験を積み重ねる。 ・模範演奏や古今東西の名曲を鑑賞し、意欲を高める。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	領域、観点を精査し、偏りのないように授業計画を作る。教材研究を深め、系統的に指導できるようにする。	
家庭との連携による学習習慣の確立	タイミングを逃さず、授業や学校生活の様子を家庭に連絡する。 毎回、プリント学習を宿題として課し、授業時に提出させる。	
学びを深める学習ルールの確立	全校一丸となり、授業規律（チャイム着席、提出物、忘れ物、授業の受け方）の確立をめざす。 学習支援指導員の支援を利用する。	

児童・生徒の実態	明るく活発な生徒が多いが、基本的な生活習慣やマナーが身につけていないために、授業規律の確立が難しい。また集中力に欠け、困難を避ける傾向があるので授業中の私語や問題行動も目立つ。題材や単元によっては学習意欲の高まりも見られる。	
後期の重点	なるべく多くの生徒に授業への意欲を継続させることで、学習活動を活発にし理解を深めさせるため、題材や単元の指導内容と方法を工夫することが必要である。さらに各学年の協力も得ながら基本的な生活習慣の確立を目指し、挨拶や礼儀作法、提出物などについての改善を図ることが求められる。	
担当学年	課題	改善策
第1学年	精神的な幼さが目立ち、教員の指導に従わないことも多く、学習への意欲や集中力の欠如などによる理解力不足や低学力が著しい。	学習の重要性を理解させ、授業への集中力と意欲を持たせるために、取り組みやすい題材の工夫や低学力の生徒への支援（支援員などを活用）に配慮する。
第2学年	遅刻や抜け出し、私語など授業規律の乱れが目立つが、題材や単元によっては非常に意欲的に活動に取り組む姿が見られる。ただし作品の完成度は低い。	学年と協力しながら授業規律の確立を目指し、授業に集中させることでより意欲を持って表現方法を工夫したり、完成度を高める努力を導き出す。
第3学年	一部の生徒を除いては意欲的に授業に取り組み、制作にも工夫と努力が見られるが、表現力不足のためイメージを具体化することができない。	表現力を高めるために基礎的な描画指導も取り入れながら、イメージを自由に描き出すための技能を身につけてより幅広い表現活動を可能にする。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<ul style="list-style-type: none"> イメージを形にできない生徒は多い。そこで基礎的な描画技法の練習と、発想力を伸ばす助言や資料等の提示を反復することで、習得した技術やイメージした造形を駆使し、しっかり作品として表現できるよう指導する。 鑑賞で学んだ造形の知識や視点を自分の制作に生かせるよう指導する。 	
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 宿題等を通して教科の学習内容や指導法について家庭に理解を求める。 保護者の協力も得ながら、面倒を避けたり努力を惜しむことのない姿勢を養い、粘り強く課題に取り組む生徒を育てる。 	
学びを深める学習ルールの確立	<ul style="list-style-type: none"> 「説明」と「作業」の時間をしっかり分けて切り替えをさせる。 用具の忘れ物をしないよう指導する。 「個」の作業と「集団」での作業の違いを認識させる。 	

保健体育(男子)担当	氏名	新岡秀一郎
------------	----	-------

生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に参加している生徒が多い。 ・水泳の授業では、他の単元に比べ忘れ物や見学が増加する。 ・話を聞く姿勢がとれない生徒が多い(おしゃべり、態度) ・全体的に身体能力が高く、運動が好きな生徒が多い。 	
後期の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立 ・導入時に生徒の意欲を高める話や教材の使用。 	
担当学年	課題	改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランメニューや補強を導入時に入れ、基礎体力の底上げを図る。 ・授業における運動量を増やす。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべり等が聞こえた場合には、話を一度中断し、授業の進行に影響が出ていることを伝える。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気は明るい、度が過ぎることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こちら側で生徒の動きを把握し、未然にふざけあいを防ぐよう、リーダー中心に注意しあえる環境をつくる。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・体育学習カードを用い、生徒がどれだけ単元に対して考えているのか、理解しているのかを知る。 ・体育の教科書を用い、ルール学習を行う。 	
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物が多い生徒には担任を通じて家庭連絡をしてもらい、体育の授業に参加させるよう家庭からの協力を得る。 	
学びを深める学習ルールの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を確立し、規律を守れない生徒に対しては指導を徹底していく。 ・学習環境を整える。(服装を正すことや活動場所の整備の徹底) 	

保健体育(女子)担当	氏名	松本 静佳
------------	----	-------

生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が授業に前向きに取り組むことができている。 学年にもよるが、授業に意欲的に取り組めない生徒も数名いる。 仲間と協力したり、励ましたりする行動も見られるが、自主的に行うことができる生徒は少ない。 自分の課題解決のために目標を意識して取り組もうとすることができる。 	
後期の重点	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な活動につながる授業づくり。(ルールづくり、指示出し、ねらいの設定など) 自主的、自律的な態度の育成。 体力、技術向上のために、運動量を確保する。 分かりやすい形で成長が実感できるような目標提示。 	
担当学年	課題	改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 消極的な行動、姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> 積極性のある生徒や行動を褒めて、他の生徒の見本にしていく。 リーダーに限らず、指示出しや、片づけ等の仕事を任せていく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> おしゃべり等が聞こえた場合には、話を一度中断し、授業の進行に影響が出ていることを伝える。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 元気があり、意見もたくさん出るが、話し始めるとけじめをつけることができずに話し続けてしまう。 集中することが苦手で、話を聞き続けられないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を出す時間と、話を聞く時間のメリハリを全員がつけられるよう、生徒通しで注意し合える環境をつくる。 話を聞ける体勢になるまで進めない。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードに用語やポイントを書かせるようにして補う。 思考・判断についても学習カードと体育ノートで、課題→目標→反省→反省をもとにした次回の課題設定を繰り返し行い、考える力を身につけさせる。 	
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上と結びつけ、各家庭で体操やストレッチを行うようにさせる。 スポーツの知識として、各家庭でスポーツの試合中継やスポーツ番組などを見てもらうようにする。ルールや技術の説明をしてもらうようにする。 	
学びを深める学習ルールの確立	<ul style="list-style-type: none"> 集合の合図(用語)をつくる。「基本隊形」など 準備や集合は急ぐ(走る)ようにさせる。 「注目」(笛、手を挙げる)の徹底。 仲間同士で教え合ったり励まし合ったりさせる。 	

(技術・家庭) 担当	氏名	川上 吉原
------------	----	-------

生徒の実態	<p>毎時間課題に意欲的に取り組む生徒もいるが、集中力に欠け落ち着きがない生徒が多い。</p> <p>授業中の姿勢の乱れや持ち物忘れなど、授業に対する基本的な姿勢が十分ではない。</p>	
後期の重点	<p>作品の制作が授業の中心になるので、安全面と授業の基本的な約束事を改めて確認し徹底させ、全体的に落ち着いた雰囲気で行うことに重点をおきたい。</p> <p>また、個別対応を通して、制作に関する個人の技能を向上させる。</p>	
担当学年	課題	改善策
第1学年	<p>基礎的な技能を確実に身につけさせる。</p> <p>提出物の期限内での徹底。</p>	<p>思考的な発問で考える授業を行っていく。</p> <p>提出物の徹底を何度も指導する。</p>
第2学年	<p>授業で学んだ知識を実習で実践しているが、知識としての定着がよくない。</p> <p>学んだ知識をいかに実習で実践するのかよく考えさせる必要がある。</p>	<p>授業で学んだ知識が実習に直結し、その知識が定着するよう繰り返し学習させる。</p> <p>また、実習中に学んだ知識をどのように生活で実践させるのかを考えさせる授業を行っていく。</p>
第3学年	<p>授業内容が普段の生活とつながりが深い割には、指導内容の定着が良くない。</p> <p>授業で学んだ知識を生活の上でどのように使っていくか、思考的な分野の強化が必要である。</p>	<p>生活に直結した教材の準備と開発によって、今までに学んできた知識の統合を図り、その時間に何を学んだかをはっきりさせていく。</p>
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<p>作品を制作していく中で、個人個人が自分自身の作品に対する問題にぶつかり、その問題を解決するためにはどうしたらいいのか考えさせると同時に、進度の速い生徒と助け合い学習を行うことで、個人の技能を向上させる。</p>	
家庭との連携による学習習慣の確立	<p>授業で学んだ知識を家庭での生活に活かす機会を見つけ、実践する力を強化する。その繰り返しで知識の定着をはかる。</p>	
学びを深める学習ルールの確立	<p>実習中は教員だけでは、すべての生徒に対応しきれないので、進度の速い生徒、技能の高い生徒に先生役になってもらい助け合い学習を行う。</p> <p>また学校支援員の協力も仰ぐ。</p>	